

NEWS LETTER

Institute of Social Safety Science

地域安全学会ニュースレター No. 112

－目次－

1. 第 47 回（2020 年度）地域安全学会研究発表会（秋季）
開催要領 1
2. 第 47 回（2020 年度）地域安全学会研究発表会（秋季）
一般論文募集 2
3. 地域安全学会論文集 No.38（電子ジャーナル）の募集と
投稿方法 8
4. 総会報告等
(1) 2020 年度地域安全学会総会 報告 10
(2) 地域安全学会オンライン研究報告会における優秀発表賞 26
5. 東日本大震災連続ワークショップ 2020 オンライン研究報告会
開催報告 28
6. 寄稿
微動と温泉
山田 雅行(株式会社ニュージェック) 29



地域安全学会ニュースレター
ISSS News Letter

No. 112

2020. 8

1. 第47回（2020年度）地域安全学会研究発表会（秋季）開催要領

第47回（2020年度）地域安全学会研究発表会（秋季）は、昨今の新型コロナウイルス感染症の拡大状況等を鑑み、参加者の皆様、大会を支えるスタッフ等の安全確保や感染症の拡大防止のため、今年度はオンラインにて、下記の要領で開催することと致しました。例年とスケジュールや開催方式が大きく異なりますので、詳細をよくご確認ください。

このような状況下ではありますが、地域の安全、安心、防災に関心のある多くの方々の参加により、活発な発表、討議、意見の交流が行われることを期待いたします。奮ってご参加下さい。

(1) 研究発表会

■日時：令和2年10月30日（金）～11月1日（日）（3日間）

■スケジュール

*査読論文の採択本数、一般論文の登録本数等によりスケジュールは多少変更することがあります。詳しくは10月号を参照下さい。

*原則、3日間ともZoom等を使った発表・質疑・講演を予定しております。

(1)10月30日（金）	9:15～9:25	開会あいさつ+諸注意事項の伝達（Zoomでの受付は9:00より開始）
	9:30～12:00	一般論文発表（ <u>口頭発表</u> ）（複数セッションを並行して開催予定）
	12:00～13:00	昼休み
	13:00～16:30	一般論文発表（ <u>口頭発表</u> ）（複数セッションを並行して開催予定）
	16:45～17:20	<u>2019年度地域安全学会技術賞受賞記念講演</u>
(2)10月31日（土）	9:15～9:25	開会あいさつ+諸注意事項の伝達（Zoomでの受付は9:00より開始）
	9:30～12:00	査読論文発表
	12:00～13:00	昼休み
	13:00～17:00	査読論文発表（途中休憩を挟む予定）
(3)11月1日（日）	9:15～9:25	諸注意事項の伝達等（Zoomでの受付は9:00より開始）
	9:30～12:00	査読論文発表
	12:00～13:00	昼休み
	13:00～17:00	査読論文発表（途中休憩を挟む予定）

■参加費：無料（ただし事前申し込みが必要。申し込み方法等については10月号をご参照ください。）

*また、参加して頂くためには、Zoom等の会議に参加するためのパソコン、タブレット、スマホ等の機器と通信環境が必要となります。

■論文集・梗概集

・論文集・梗概集のファイルを事前にインターネット上で公開する予定です。（詳しくは10月号参照）

2. 第47回(2020年度)地域安全学会研究発表会(秋季)一般論文募集

(1) 投稿要領

地域安全学会 秋季研究発表会実行委員会

会員各位におかれましては、お忙しい日々をお過ごしのことと存じます。

さて、第47回(2020年度)地域安全学会研究発表会(秋季)を下記の通り開催いたします。本年は新型コロナウイルス感染症拡大の状況を踏まえ、研究発表会全体を **オンライン形式** で行います。これに伴い一般論文の発表形式を、例年の **ポスター発表形式からオンラインでの口頭発表形式に変更** させていただきます。なお、Eメールによる **事前登録が必要** です。また投稿論文はPDFファイルに変換し、Eメールで投稿する形式になっております。このような状況下ではありますが、ふるってご応募くださいますようお願い申し上げます。

I. 開催日時・場所

(1) 日時：**令和2年10月30日(金)** (一般論文発表)

一般論文(口頭発表)の発表は10月30日(金)9:30~12:00、13:00~16:30において、複数のセッションを同時並行で開催する予定です。

*一般論文の登録本数等によりスケジュールは多少変更することがあります。

詳しくは10月号を参照下さい。

(2) 発表・質疑の方法

Zoom等を使ったオンライン形式での発表・質疑応答の実施を予定しております。従って、Zoom等の会議に参加するためのパソコン、タブレット、等の機器と通信環境が必要となります。

II. 投稿方法

論文を投稿するには、**Eメールによる登録を行っていただく必要があります。発表形式はオンラインによる口頭発表のみです。**

II-1. Eメールによる登録

(1) 登録期限：令和2年9月11日(金)

(2) 宛先：ippan-aki@iss.info

(3) 登録内容、書式：

1行目 「地域安全学会一般論文登録」と入力してください。

2行目 論文題目

3行目 筆頭著者氏名

4行目 筆頭著者所属

5行目 筆頭著者連絡先住所(郵便番号も)

6行目 筆頭著者Eメールアドレス

7行目 筆頭著者電話番号

8行目 筆頭著者ファックス番号

9行目 連名著者がいない場合は論文概要(250字以内)、
いる場合はその氏名、所属を1行に1名ずつ記入、
改行後、論文概要(250字以内)

注) 発表者がわかるように氏名に○をつけてください。

(4) その他：

(a) 登録時の論文概要を発表会プログラムと共に、次号の「ニュースレターNo.113」および学会ホームページに掲載する。

(b) 発表は一人一論文のみ

(c) 登録完了後、事務局より受付番号の入った登録受理メールをお送りします。

II-2. 本文の送付

(1) 送付期限：令和2年9月28日(月)

(2) 論文形式：

(a) 次ページに掲載してある投稿形式参照。なお、当学会のホームページ(www.iss.info)に掲載のMS-Wordテンプレートをダウンロードの上、利用可能。

(b) A4版、4ページ以内。PDFファイルに変換したものを投稿してください。投稿されたPDFファイルを白黒出力し印刷します。

(3) 送付先

(a) E-mail: ippan-aki@iss.info

(PDFファイルをe-mailにて送付してください)

(4) 本文送付時のメールの書式：

1行目 「優秀発表賞に応募します」あるいは「優秀発表賞に応募しません」というどちらかを明記ください。

*「優秀発表賞」については、本投稿要領の「V. 優秀発表賞の事前応募登録」をお読みください。

2行目 Eメールによる発表登録受理メールにて返信された受付番号

3行目 筆頭著者(=優秀発表賞の応募登録者)の氏名

4行目 筆頭著者所属

III. 投稿料の納入

(1) 投稿料：10,000円(4ページ以内厳守)

(2) 投稿料の納入方法

① 期限：令和2年9月28日(月)までに②宛てに振り込んでください。

② 振込先：

銀行：りそな銀行 市ヶ谷支店(店番号725)

口座名：一般社団法人地域安全学会 秋季研究発表会口座

口座種別・番号：普通預金 1745849

振込者名：筆頭著者氏名

③ その他：振り込みの際には、登録受理メールにて返信された受付番号を筆頭著者氏名の前に入力してください。

④ 注意：査読論文の登載料振り込み口座とは異なりますのでご注意ください。

IV. 優秀発表賞の事前応募登録（地域安全学会 表彰委員会）

地域安全学会では、平成24年度から春季・秋季研究発表会での一般論文の研究発表（口頭発表・ポスター発表）を対象として優秀発表賞を設置し、表彰を行っています。来たる令和2年10月に実施される第47回（2020年度）地域安全学会研究発表会(秋季)一般論文については、下記要領で実施します。

事前に応募登録された方のみを対象に選考するものとし、受賞資格を下記のように設けていますのでご確認の上、必ず下記の方法にて応募登録をお願いします。大学院生をはじめとする若手会員の皆さんや新たに研究活動を始められた方々の活発な研究活動を奨励することを目的としております。奮って応募していただくようお願いいたします。なお、応募者は当日の懇親会に出席の上、選考結果発表会に臨むものとしています。

■「優秀発表賞」応募登録の方法

・論文本文送付時に情報を記載する。詳しい方法については、「II. 投稿方法」の「II-2. 本文の送付」の「(4) 本文送付時のメールの書式」を参照してください。

■地域安全学会研究発表会(秋季)での実施要領

- ・授賞対象：
「地域安全学会優秀発表賞」の授賞対象者は、地域安全学会 研究発表会（春季・秋季）での一般論文の研究発表（口頭発表・ポスター発表）の発表者であり、原則、研究実施または論文作成において指導を受ける立場にある40歳（当該年度4月1日時点）未満の者とする。ただし、実務者等は研究歴等を考慮し年齢規定を緩和することもある。再受賞は認めない。また、予定された発表者ではない代理発表者及び一般論文登録時に審査を希望しない旨登録した者は対象外とする。
- ・授賞件数：若干名（当日の選考結果発表会に出席できる者）
- ・選考方法：口頭発表の内容、プレゼンテーション、質疑応答の総合評価
- ・選考結果：後日、学会HP、ニューズレター等で発表する

(2) 投稿規程

一般論文投稿規程

平成21年7月
地域安全学会 研究発表会実行委員会

1. 一般論文投稿分野

地域社会の安全問題、解決策についての横断的な幅広い分野の研究・技術・実務などを論ずるもの、あるいは具体的な提言に関するもの。

2. 投稿者

論文の筆頭著者は、地域安全学会会員に限り、研究発表会において発表し、かつ討議に参加しなければならない。

3. 投稿先

地域安全学会研究発表会実行委員会の宛先とする。

4. 発表方法

一般論文の発表方法は「口頭発表」または「ポスター発表」による。筆頭著者（発表者）1人につき、1演題に限るものとする。

5. 投稿手続き

5-1投稿期限：投稿期限は、地域安全学会研究発表会に先だって会告する。

5-2投稿原稿の内容：投稿原稿は、1編で完結したものとし、同一テーマのものとのシリーズ発表は受け付けない。また、秋の研究発表会については、同一会期内で開催される研究発表会で発表する査読論文とは異なるものとする。

5-3使用言語：投稿論文に使用可能な言語は、和文または英文でなければならない。

5-4提出原稿の様式：投稿者は、期日までに「地域安全学会梗概集」に登載するための「印刷用オリジナル原稿」を地域安全学会研究発表会実行委員会事務局まで提出しなければならない。提出原稿は、「一般論文投稿形式」によるものとし、図・表・写真を含め、PDFファイルで提出するものとする。PDFファイルを白黒出力したものを印刷用の版下原稿とする。

6. 著作権

6-1 著者は掲載された論文等の「著作権」を本会に委託する。

6-2 著者が自らの用途のために自分の掲載論文等を使用することについて制限はない。なお、論文等をそのまま他の著作物に転載する場合にはその旨を明記する。

6-3 掲載された論文等の編集著作権、出版権は本会に帰属する。

6-4 第三者から本会に対して、論文等の翻訳、図表の転載の許諾要請があった場合、著者に通知し許諾を求める。ただし既に本会会員として所属せず、連絡不能な場合はこの限りでない。

6-5 著者は、本会または本会が許諾した者の利用に伴う変形については「同一性保持権」を行使しないものとする。

6-6 論文等の内容が第三者の著作権を侵害するなど、第三者に損害を与えた場合は著者がその責を負う。

6-7 論文等の著作権の使用に関して本会に対価の支払いがあった場合は、本会会計に繰り入れて、学会活動に有効に活用する。

(3) 執筆要領と投稿形式

地域安全学会講演概要集の執筆要領と和文原稿作成例 Guideline for Manuscript and Japanese Paper Sample of the Proceedings of Social Safety Science

地域 太郎¹, ○安全 花子²
Taro CHIIKI¹ and Hanako ANZEN²

¹ 地域安全大学 情報工学科

Department of Information Technology, Chiiki Anzen University

² 防災科学コンサルタント(株) 防災技術部

Department of Disaster Mitigation Engineering, Bousai Kagaku Consultants Co., Ltd.

The present file has been made as a print sample for the Proceedings of ISSS. The text of this file describes, in the camera-ready manuscript style, instructions for preparing manuscripts, thus allowing you to prepare your own manuscript just by replacing paragraphs of the present file with your own, by CUT & PASTE manipulations. Both left and right margins for your Abstract should be set 1 cm wider than those for the text of the article. The font used in the abstract is Times New Roman, 9pt, or equivalent. The length of the abstract should be within 7 lines.

Key Words : Times New Roman, italic, 9 point font, 3 to 6 words, one blank line below abstract, indent if key words exceed one line

1. レイアウト

(1) マージン等

- ・上下 : 各 20mm, 左右 : 各 20mm
- ・二段組み本文の段組間隔は 8mm

(2) フォント等

- ・題目 : 和文はゴシック 14pt, 中央揃え, 左右各 30mm のマージン.
英文は Times New Roman 12pt, 中央揃え, 左右各 30mm のマージン.
- ・著者名 : 和文は明朝 12pt, 中央揃え, 左右各 30mm のマージン.
英文は Times New Roman 12pt, 中央揃え, 左右各 30mm のマージン.
- ・著者所属 : 和文は明朝 9pt, 左揃え 30mm のマージン.
英文は Times New Roman 9pt, 左揃え 30mm のマージン.
- ・アブストラクト : 英文 Times New Roman 9pt, 左揃え, 左右各 30mm のマージン.
- ・キーワード : Times New Roman, italic, 9pt, 3-6 語, 2 行以内, 左右各 30mm のマージン.
“Key Words” はボールドイタリック体.
- ・本文 : 明朝 9pt, 行替えの場合は 1 字下げ.
一章の見出し : ゴシック 10pt, 左寄せ
一節, 項の見出し : ゴシック 9pt, 左寄せ
一図, 表, 写真のキャプション : ゴシック 9pt, 中央揃え
- ・補注, 参考文献の指示 : 明朝 9pt の右肩上付き 1/4 角を原則としますが, 各学問分野の慣例に従っても構いません.
- ・補注(必要な場合) : “補注” はゴシック 10pt, 左寄せ, 補注自体は, 明朝 8pt.
- ・参考文献 : “参考文献” はゴシック 10pt, 左寄せ. 参考文献自体は, 明朝 8pt.

(3) 行数および字数

二段組みとし, 一段当りの幅は 81mm, 1 行当り 25 字, 行間隔は 4.3mm で, 1 ページ当り 60 行を標準として下さい. したがって, 文章のみのページでは 1 ページ当り 3,000 字が標準的な字数となります.

(4) 総ページ数

題目から参考文献までを含めて, 最大 4 ページの偶数ページとして下さい.

2. 英文論文への適用

本文を英文とする論文の執筆要領は, 本文が和文であることを前提として作成した本「執筆要領」に準拠して下さい. しかし, 英文の場合は, 和文のタイトル, 著者名, 所属は不要です.

本文のフォントは, Times New Roman 9pt を基本として使用して下さい.

3. 印刷用オリジナル原稿

「地域安全学会講演概要集」は, 定められた期日までに, 印刷用オリジナル原稿を提出していただきます.

印刷用オリジナル原稿とは, 印刷・出版用の高度なタイプライターもしくはコンピューターシステムを用いて作成され, そのままオフセット印刷にかけられる完全な体裁に整えられた原稿を指します.

4. 著作権と著者の責任

「地域安全学会講演概要集」に登載された個々の著作物の著作権は著者に属し, 原稿の内容については著者が責任を持つこととなります. したがって, 印刷後発見された誤植や内容の変更はできません. 誤植の訂正や内容の変更が必要な場合は, 著者の責任において, 文書で, 当該論文が登載されている「地域安全学会講演概要集」所有者に周知して下さい.

(4) 地域安全学会研究発表会における「技術賞」の応募登録のお知らせ

地域安全学会 表彰委員会

地域安全学会では、平成20年度から、「地域社会における安全性および住民の防災意識の向上を目的として開発され、顕著な貢献をしたすぐれた技術（システム、手法、防災グッズ、情報技術、マネジメント技術を含む）」を対象として「技術賞」を創設し、表彰を行っています。平成25年度から、広く会員への周知を図るとともに、一般論文投稿時に筆頭著者から応募登録を受け付けることで審査対象を広げ、別途応募書類を作成する事なく一次選考対象に加えることにしています。

なお、この応募登録の有無にかかわらず、従来通り10月に改めて技術賞候補の推薦を公募した際に申請書類を提出していただいて、新たな成果を追加し再応募することも可能です。審査会は、今年度のすべての応募を対象に年一回行われます。

同じく一般論文を対象とした「優秀発表賞」とは審査の視点や対象が異なるため、重複応募登録は妨げません。奮って応募していただくようお願いします。

■研究発表会(秋季)における「技術賞」応募登録の方法は以下の要領でお願いします。

論文本文送付時に、論文を送付したメールとは別便のメールで以下の情報を記載して下さい。

(1) 登録期限：一般論文の本文送付期限と同じ

(2) 宛先：一般論文の送付先メールアドレスと同じ： ippan-aki@issss.info

(3) 応募登録内容、書式：

・メール本文に以下の情報を記載する。

1行目 「技術賞に応募します」と入力してください。

2行目 Eメールによる発表登録受理メールにて返信された受付番号

(以下の①～⑤についてそれぞれ400字以内で述べてください。該当しない項目は、「該当なし」と記載願います)

3行目 当該技術の「①実績・開発期間」

4行目 当該技術の「②有用性・実用性」

5行目 当該技術の「③革新性・新規性」

6行目 当該技術の「④一般性・汎用性」

7行目 当該技術の「⑤将来性・展開性」

8行目 筆頭著者（＝技術賞の応募登録者）の氏名

9行目 筆頭著者の所属

10行目 筆頭著者連絡先住所（郵便番号も）

(自宅以外の場合は、所属部課名、研究科／専攻名、研究室名などを最後まで正確に記載)

11行目 筆頭著者のE-メールアドレス

■研究発表会(秋季)の査読論文、並びに電子ジャーナル論文投稿時における、著者からの「技術賞」応募登録制度はありませんが、学術委員会による推薦制度が設けられています。

(5) 研究発表会（秋季）「優秀発表賞」事前応募登録のお知らせ

地域安全学会 表彰委員会

地域安全学会では、平成24年度から春季・秋季研究発表会での一般論文の研究発表（口頭発表・ポスター発表・オンライン口頭発表）を対象として優秀発表賞を設置し、表彰を行っています。来たる令和2年10月に実施される第47回（2020年度）地域安全学会研究発表会(秋季)一般論文（オンライン口頭発表）については、下記要領で実施します。

事前に応募登録された方のみを対象に選考するものとし、受賞資格を下記のように設けていますのでご確認の上、必ず下記の方法にて応募登録をお願いします。大学院生をはじめとする若手会員の皆さんや新たに研究活動を始められた方々の活発な研究活動を奨励することを目的としております。奮って応募していただくようお願いします。なお、応募者は当日の懇親会に出席の上、選考結果発表会に臨むものとしています。

■「優秀発表賞」応募登録の方法

・研究発表会実行委員会への論文本文送付時に、メール本文に以下の情報を記載する。

- 1行目 「優秀発表賞に応募します」と入力してください
- 2行目 Eメールによる発表登録受理メールにて返信された受付番号
- 3行目 筆頭著者（＝優秀発表賞の応募登録者）の氏名
- 4行目 筆頭著者の所属

*論文本文送付時に情報を記載する方法については、本ニューズレター「2. 第47回（2020年度）地域安全学会研究発表会（秋季）一般論文募集」の「(1)投稿要領」の「Ⅱ. 投稿方法」の「Ⅱ-2. 本文の送付」の「(4)本文送付時のメールの書式」にも記載されています。

■地域安全学会研究発表会(秋季)での実施要領

・授賞対象：

「地域安全学会優秀発表賞」の授賞対象者は、地域安全学会 研究発表会（春季・秋季）での一般論文の研究発表（口頭発表・ポスター発表）の発表者であり、原則、研究実施または論文作成において指導を受ける立場にある40歳（当該年度4月1日時点）未満の者とする。ただし、実務者等は研究歴等を考慮し年齢規定を緩和することもある。再受賞は認めない。また、予定された発表者ではない代理発表者及び一般論文登録時に審査を希望しない旨登録した者は対象外とする。

- ・授賞件数：若干名（当日の選考結果発表会に出席できる者）
- ・選考方法：口頭発表の内容、プレゼンテーション、質疑応答の総合評価
- ・選考結果：大会当日の懇親会で発表する

3. 地域安全学会論文集 No. 38（電子ジャーナル）の募集と投稿方法

2020年7月
地域安全学会 学術委員会

地域安全学会では研究発表会（秋季）論文に加えて、電子ジャーナル論文の募集を実施しております。2020年度も「地域安全学会論文集 No. 38（電子ジャーナル）」を募集することになりました。本電子ジャーナル査読論文については、2020年8月21日（金）正午12:00までの期間内に、地域安全学会のWebサイト(<http://iss.jp.net/>)から、論文申込と査読用論文原稿を同時に投稿して下さい。

査読は、カラー原稿を前提として行います。なお、再録、印刷される冊子体論文集はすべて白黒印刷とします。また、論文別刷りの作成・送付は行わないこととしておりますので、ご了承下さい。

2020年の第47回研究発表会（秋季）査読論文（地域安全学会論文集 No. 37）より、査読用論文原稿には氏名、所属および謝辞を記載することとなりました。投稿に当たっては、ホームページ上の[テンプレート](#)を必ずご使用下さい。

会員各位の積極的な電子ジャーナル査読論文の投稿をお願いします。

1. 日程等

- (1) 論文申込と査読用論文原稿の投稿期間(オンライン論文投稿・査読システム)
2020年7月13日（月）～2020年8月21日（金）正午12時（時間厳守）
※本学会のオンライン論文投稿・査読システムでは、1度投稿すると修正できません。十分に確認の上で投稿ください。
※また1投稿あたり1件の査読料が必要です。同じ論文を複数回投稿することがないようにご注意ください。
- (2) 第一次査読結果の通知
2020年11月上旬
- (3) 修正原稿の提出期限(オンライン論文投稿・査読システム)
2021年1月3日（日）正午12:00（時間厳守）
- (4) 第二次査読結果の通知
2021年1月中旬
- (5) 再修正原稿の提出期限(オンライン論文投稿・査読システム)
2021年2月19日（金）正午12:00（時間厳守）
- (6) 「地域安全学会論文集 No. 38」への登載可否の通知
2021年3月5日（金）頃
- (7) 登載決定後の最終原稿の提出期限(オンライン論文投稿・査読システム)
①PDF ファイル と Word ファイル のオンライン上での提出
2021年3月19日（金）正午12:00（時間厳守）
②白黒原稿の郵送
2021年3月19日（金）（消印有効）
- (8) 「地域安全学会論文集 No. 38」をホームページ上で電子ジャーナル論文として発行
2021年3月26日（金）
- (9) 「地域安全学会論文集 No. 38」を再録、印刷
2021年11月初旬～中旬 ※令和3年度地域安全学会研究発表会時。

2. 査読料の納入

- (1) 査読料 1万円／編
- (2) 査読料の納入方法
 - ①期 限：2020年8月26日（水）までに、②宛てに振り込んで下さい。
 - ②振込先： りそな銀行 市ヶ谷支店
口座名：一般社団法人地域安全学会 査読論文口座
口座種別：普通口座
口座番号：1745807
振込者名：受付番号＋筆頭著者（例：2020-000 チイキタロウ）
 - ③その他：査読料の入金確認をもって論文申込手続きの完了とさせていただきます。

3. 登載料の納入

- (1) 登載料 (CD-ROM 版論文集 1 枚 + 冊子体論文集 1 冊を含む)
6 ページは 2 万円 / 編, 10 頁を限度とする偶数頁の増頁については, 5 千円 / 2 頁。
- (2) 登載料の納入方法
2021 年 3 月 25 日 (木) までに, 上記 2. (2)-② の振込先に振込んで下さい。

4. その他の注意事項

- (1) 執筆要領テンプレートの入手方法
「論文集の執筆要領」は, 電子ファイル「論文集の執筆要領と和文原稿作成例」(テンプレート)が, 地域安全学会ホームページ (<http://issj.jp.net/>) にありますので, 必ず最新のテンプレートをご利用下さい。 なお, 2020 年の第 47 回研究発表会 (秋季) 査読論文 (地域安全学会論文集 No. 37) より, 査読用論文原稿には氏名, 所属および謝辞を記載することとなりましたので, ご注意ください。詳細につきましては執筆要領をご参照下さい。
- (2) 申込だけで原稿が未提出のもの, 査読料の払い込みのないもの, 投稿論文が執筆要領に準じていないもの, および期限後の電子投稿は原則として受理できません。
- (3) 「冊子体論文集」は, 最終原稿ファイル (PDF 形式) の白黒出力を掲載します。原稿がカラー版の場合でも白黒印刷となります。しかし, 「冊子体論文集」に添付される「CD-ROM 版論文集」には, カラー図版に関する制限はありません。

会員の皆様へ 論文査読のご協力お願い

「地域安全学会論文集」への投稿論文につきましては, 学術委員会にて論文 1 編あたり 2 名の査読者を, 原則として会員内より選出し, 査読依頼を e-mail で送信いたします。なお, 平成 30 年の第 43 回 (2018 年度) 研究発表会 (秋季) 査読論文から, 「オンライン論文投稿・査読システム」を使用して, 査読業務 (論文ダウンロードから査読結果の入力まで) を行っておりますので, ご留意下さい。

地域安全学会の会員各位におかれましては, 学術委員会より査読依頼が届きましたら, ご多用中のことと存じますが, ご協力の程, よろしくお願い申し上げます。

4. 総会等報告

(1) 2020年度地域安全学会総会 報告

1). 2019年度事業報告

①理事会の開催

2019年度は理事会を下記のとおり開催した。

- 第1回 2019年5月24日（金） 長野県木曾郡木曾町（木曾町文化交流センター）
- 第2回 2019年7月6日（土） 東京（東工大キャンパスイノベーションセンター）
- 第3回 2019年9月1日（日） 東京（東工大キャンパスイノベーションセンター）
- 第4回 2019年11月1日（土） 静岡（静岡県立大学）
- 第5回 2020年1月11日（土） 東京（同志社大学東京オフィス）
- 第6回 2020年3月21日（土） 東京（同志社大学東京オフィス）

②総会・春季研究発表会・公開シンポジウムの開催

総会・春季研究発表会・公開シンポジウムを下記のとおり開催した。

期間：2019年5月24日（金）～25日（土）

i. 5月24日（金）

- (a) 一般論文発表：54編
- (b) 2019年度地域安全学会総会
- (c) 表彰式（年間優秀論文賞、論文奨励賞）
- (d) 会場：木曾町文化交流センター（長野県木曾郡木曾町福島5129）

ii. 5月25日（土）

(a) 公開シンポジウム「御嶽山噴火災害から5年 火山との共生と木曾地域の振興」

会場：木曾町文化交流センター多目的ホール（上掲）

司会・進行：小山真紀（岐阜大学・准教授）

- 主催者挨拶：目黒公郎（地域安全学会会長、東京大学 教授）
- 来賓挨拶：阿部守一（長野県知事）
- 基調講演「御嶽山噴火災害と火山マイスター制度の創設」
山岡耕春（名古屋大学大学院環境学研究科地震火山研究センター 教授）
- 地元小学校の取り組み（平成30年度三岳小学校での取り組み）
御嶽山ジュニア火山マイスター
- パネルディスカッション
パネリスト：
國友孝洋（名古屋大学大学院環境学研究科地震火山研究センター特任准教授）
川上明宏（御嶽山火山マイスター・三岳小学校教頭）
竹脇聡（御嶽山火山マイスター・木曾観光連盟事務局）
小池優紀夫（御嶽山火山マイスター・おんたけ休暇村）
松井淳一（一般社団法人木曾おんたけ観光局代表理事）
コメンテーター：阪本真由美（兵庫県立大学 准教授）
コーディネーター：秦康範（山梨大学 准教授）
- 閉会挨拶：原久仁男（木曾町長）

(b) 現地見学会

③東日本大震災連続ワークショップ2019 in 南相馬

下記の通り、ワークショップを実施した。

期間：2019年8月2日（金）～3日（土）

場所：南相馬市市民情報交流センター（福島県南相馬市原町区旭町2丁目7-1）

- ①東日本大震災ワークショップ：20件

②基調講演「南相馬市の復興状況」（門馬哲也復興企画部企画課長）

③南相馬市の復興ツアー

④秋季研究発表会の開催

秋季研究発表会を下記のとおり開催した。

期間：2019年11月1日（金）～2日（土）

場所：静岡県立大学草薙キャンパス小講堂

査読論文発表：35件、一般論文ポスター発表：31件

⑤地域安全学会論文集・梗概集の刊行

- i. 春季研究発表会において「地域安全学会梗概集No. 44」を刊行した。
- ii. 秋季研究発表会において「地域安全学会論文集No. 34（電子ジャーナル論文）、No. 35（研究発表会論文）」を刊行した。
- iii. 秋季研究発表会において「地域安全学会梗概集No. 45」を刊行した。
- iv. 地域安全学会論文集No. 36（電子ジャーナル論文）をホームページ上に公開した。

⑥一般研究論文等のホームページ公開

地域安全学会として学術的な知をより広く社会に還元することを目的として、これまでに発行してきた地域安全学会梗概集と東日本大震災特別論文集のHP上での公開を更新した。

⑦地域安全学会論文賞・論文奨励賞・年間優秀論文賞の選出

- i. 査読論文（電子ジャーナル）No. 34(2019.3)、および査読論文（研究発表会）No. 35(2019.11)に掲載された合計49編の論文を対象として、2019年地域安全学会論文賞の審査を行った。審査会における審議の結果、該当者なしとなった。
- ii. 査読論文（研究発表会）No. 35(2019.11)に掲載された合計35編の論文を対象として、2019年論文奨励賞の審査を行い、以下の2編の論文の筆頭著者を選出した。
 - (a)「三原市本郷都市計画区域における平成30年7月豪雨の浸水エリアの特徴 -浸水想定区域および宅地開発の変遷との関連に着目して-」
田村将太（広島大学）
 - (b)「災害時の防護意思決定構造の理論モデル化とその実証的検討:大分県 3 市における土砂災害に関する社会調査データへの構造方程式モデリングの適用」
藤本慎也(同志社大学)
- iii. 上記49編の査読論文を対象に年間優秀論文賞の審査を行い、以下の2編の論文の筆頭著者を選出した。
 - ・「割地制度の実態把握と被災地への応用可能性に関する一考察 新潟県長岡市信濃川沿岸での実態調査を通じて」（地域安全学会論文集No. 35）
澤田雅浩(兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科)
 - ・「震災体験の「語り」が生理・心理・記憶に及ぼす影響:語り部本人・弟子・映像・音声・テキストの違いに着目した実験的研究」（地域安全学会論文集No. 35）
佐藤 翔輔(東北大学災害科学国際研究所)

⑧地域安全学会「技術賞」の選出

13回目を迎えた地域安全学会技術賞の募集に対し、2件の応募登録があり、審査委員6人による厳正な審査の結果、以下の1件を選出した。

【名称】防災に関わる新しい概念「フェーズフリー」の提案とその普及啓発

【受賞者】 秦康範（山梨大学地域防災・マネジメント研究センター）

佐藤唯行（スペラディウス株式会社）

松崎元（千葉工業大学）

西原利仁（アスクル株式会社）

目黒公郎（東京大学）

⑨地域安全学会「優秀発表賞」の選出

第44回（2019年度）地域安全学会研究発表会（春季）において、56編の口頭発表が行われ、また、第45回（2019年度）地域安全学会研究発表会（秋季）においては、31編のポスター発表が行われた。審査の結果、以下の発表を行った4名を授賞対象者として選出した。

【春季】

- (a) 「災害対策本部会議の実態解明～大阪府北部地震初動対応の事例から」
有吉恭子(人と防災未来センター)
- (b) 「災害対応にかかる思考型演習開発の経緯とその効果測定:バタバタ型からジックリ型へ」
辻岡 綾(同志社大学大学院 社会学研究科)

【秋季】

- (a) 「病院の電源喪失対策立案とその評価手法に関する考察-院内発生事案とその原因との関係図を基に-」
宇賀光太郎氏(摂南大学大学院理工学研究科)
- (b) 「基礎自治体の災害対策本部組織体制の運用に関する比較分析-異なる組織特性を有する2つの自治体の事例を対象として-」
首藤広樹氏(兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科)

⑩ニュースレター発行とホームページ管理

2019年度はニュースレターNo. 107-No. 110の計4号を発行し、学会ホームページ上に掲載した。

⑪会員メーリングリストによる情報提供

会員への迅速な情報発信を目指して、メールによる情報配信を行った。個人情報保護を考慮しつつ、効率的な会員サービスと会員管理を進めた。

⑫企画研究小委員会研究活動

企画研究小委員会において以下の3テーマについて研究活動を実施した。

- ①社会に役立つ防災情報システム研究小委員会（主査：牧紀男（京都大学））
- ②減災型土地利用マネジメント研究小委員会（主査：馬場美智子（兵庫県立大学））
- ③復興国際比較研究小委員会（主査：大西一嘉（神戸大学工学研究科））

⑬東日本大震災関連活動

- ①福島県南相馬市において「東日本大震災連続ワークショップ2019 in 南相馬」を開催した。
- ②東日本大震災特別委員会ワークショップにおいて「地域安全学会東日本大震災特別論文集No. 8」を刊行した。

⑭国際学術交流

- ・第4回世界防災会議（ICUDR）を2019年9月16日～18日で台北にて開催した。
- ・韓国災難情報学会と今後の連携について協議した。

⑮地域安全学 夏の学校2019

2019年8月5日に大学生・大学院生を主な対象としたセミナーを首都大学東京秋葉原サテライトキャンパスで開催した。また参加者によるポスター発表も行った。

【セミナー講師】

- ①「地図作成・GIS（MANDARA）の技法と活用方法」坪井塑太郎（人と防災未来センター）

- ②「社会調査・計量研究の基礎」立木茂雄（同志社大学）
- ③「被災地での現地調査の基礎（地震工学からのアプローチ）」森伸一郎（愛媛大学）

⑩リスクコミュニケーションのモデル形成事業

2020年2月28日に、2017年度～2019年度文部科学書リスクコミュニケーションのモデル形成事業事後評価審査会にて事業報告を行った。

⑪シンポジウム等の共催・参加

以下の催事に、地域安全学会として共催した。

- ・第6回「震災対策技術展」大阪（2019年6月6日～7日）
- ・安全工学シンポジウム2019（日本学術会議）（2019年7月3日～5日）
- ・第24回「震災対策技術展」横浜（2020年2月6日～7日）

⑫防災学術連携体が主催・連携するシンポジウムに、下記の会員が参加し報告を行った。

- ①第2回防災に関する日本学術会議・学協会・府省庁の連絡会-災害時医療と理工学分野の連携-(2019年6月13日)

池内淳子(摂南大学)「病院力診断システムと使用継続診断システム、災害研修プログラム」

- ②令和元年台風第19号に関する緊急報告会(2019年12月24日)

佐藤翔輔(東北大学)「台風19号災害における宮城県内の避難行動」

- ③日本学術会議主催学術フォーラム・第9回防災学術連携シンポジウム

「低頻度巨大災害を考える」(2020年3月18日)

西川智(名古屋大学)「巨大広域災害からの広域経済の減災・早期復旧戦略」

夏の学校／予算の確認／

⑬会員数および年会費納入（2020年3月末）

	会員数	2019年度 会費納入状況
賛助会員	2	2
正会員	545	507
学生会員	75	56

2) 2019年度決算

決算に関して、宮野監事、重川監事による監査を受けた。指摘された修正を取り入れた以下の決算報告に対して承認をいただいた。

一般社団法人 地域安全学会
2020年3月31日現在

【貸借対照表】

(単位：円)

資産の部		負債及び正味財産の部	
科目	金額	科目	金額
現金	201,209	未払金	625,820
		預り金	7,656
普通預金	2,063,769	前受金	44,000
(うち、国際交流事業用資金)	407,976	仮受金	12,560
		未払法人税等	93,200
【口座別内訳】 ゆうちょ銀行	283,458		
振替預金	41,646		
春季研究発表	435,238		
秋季研究発表	228,723		
りそな査読論文	809,064		
りそなワークショップ	210,071		
りそなリスコム事業	55,569		
前払費用	0		
商品	2,750,883		
未収会費	327,000		
未収入金	9,260		
ソフトウェア	0	負債合計	783,236
		その他一般正味財産	4,568,885
		正味財産合計	4,568,885
資産合計	5,352,121	負債・正味財産合計	5,352,121

【損益計算書】

(単位：円)

科 目	金 額
【Ⅰ 収入】	
1 会費収入	4,175,000
2 寄付金収入	0
3 受取助成金	0
4 事業収入	
ア 梗概集登載料	1,010,000
イ 梗概集販売料	352,022
ウ 論文集登載料	1,260,000
エ 論文集査読料	630,000
オ 論文集販売料	232,305
カ DVD販売料	30,000
5 雑収入	
ア 懇親会費	411,000
イ 視察費	308,000
ウ その他	115,000
6 受取利息	33
収入合計	8,523,360
【Ⅱ 支出】	
1 人件費	417,725
2 通信・広報費	251,164
3 印刷・編集費	1,468,782
(印刷編集費棚卸対応分)	-237,919
4 会議費	133,378
5 旅費交通費	2,068,422
6 交際費	451,683
7 委託費	1,042,571
8 消耗品費	68,316
9 事務用品費	0
10 減価償却費	0
11 支払手数料	32,996
12 謝金	107,705
13 補助金	40,000
14 事務局費	2,028,000
15 租税公課	0
16 運営費	747,919
17 雑費等	601,393
支出合計	9,222,135
税引前当期利益	-698,775
法人税等	93,200
当期利益	-791,975
前期繰越利益金額	5,360,860
次期繰越利益金額	4,568,885

2019年度地域安全学会収支計算書

(2019年4月1日～2020年3月31日)

収入の部

(単位：円)

科 目	①予算	②決算	比較 ①-②	備 考
1.会費収入	4,071,000	4,027,000	44,000	正会員:7,000円×514名 学生会員:2,000円×54名 賛助会員100,000円×2社 過年度の未収入分のうち当期入金分:121,000円 (予算 正:541名 学生:72名 賛助:2社)
2.寄付金収入	0	0	0	
3.受取助成金等	0	0	0	リスクコミュニケーション事業 (2018年度で終了)
小 計	4,071,000	4,027,000	44,000	
4.春季研究発表会				
1)事業収益				
ア 梗概集登載料	550,000	470,000	80,000	登載料 (ページ数対応5,000円/2ページ) 47名
イ 梗概集販売料	90,000	134,234	▲ 44,234	1冊:4,000円×33部 CD1枚1,000円×1枚+送料
2)雑収入				
ア 懇親会費	0	0	0	外部に委託のため
イ 視察費	240,000	232,000	8,000	見学会参加費:4,000円×58名
ウ その他	0	5,000	▲ 5,000	王滝村より祝金
小 計	880,000	841,234	38,766	
5.秋季研究発表会				
1)事業収益				
ア 梗概集登載料	550,000	310,000	240,000	登載料 (ページ数対応5,000円/2ページ) 31名
イ 梗概集販売料	180,000	189,428	▲ 9,428	1冊:4,000円×47部+送料
2)雑収入				
ア 懇親会費	435,000	279,000	156,000	懇親会参加費:5,000円×43名、2,000円×32名
イ 視察費	0	0	0	
ウ その他	0	0	0	
小 計	1,165,000	778,428	386,572	
6.東日本大震災連続ワークショップ				
1)事業収益				
ア 梗概集登載料	240,000	230,000	10,000	登載料 (ページ数対応5,000円/2ページ)
イ 梗概集販売料	40,000	28,360	11,640	1冊:2,000円×14部+送料
2)雑収入				
ア 懇親会費	75,000	132,000	▲ 57,000	懇親会参加費:一般@6000円×20名 学生@3000円×4名
イ 視察費	80,000	76,000	4,000	見学会参加費:4,000円×19名
ウ その他	0	15,000	▲ 15,000	見学会食事代:1,000円×15名
小 計	435,000	481,360	▲ 46,360	
7.学術				
1)事業収益				
ウ 論文集登載料	1,500,000	1,260,000	240,000	登載料 (2万円+5,000円/2ページ)
エ 論文集査読料	700,000	630,000	70,000	査読料:1編10,000円×63名
オ 論文集販売料	200,000	223,045	▲ 23,045	1冊:4,000円×57部+送料
カ DVD販売料	20,000	30,000	▲ 10,000	1枚:3万円×1枚
2)雑収入				
ア その他	150,000	95,000	55,000	オンライン投稿査読システム利用料 5,000円×30編 日本災害情報学会 日本災害復興学会より
小 計	2,570,000	2,238,045	331,955	
8.受取利息	50	33	17	
9.その他	0			
収入合計	9,121,050	8,366,100	754,950	

支出の部

(単位：円)

科目	①予算	②決算	比較 ①-②	備 考
1.事務局・総務				
2) 通信費・広報費	100,000	90,186	9,814	切手、送料、電話代等
3) 印刷編集費	15,000	16,320	▲ 1,320	コピー代、封筒印刷代
5) 旅費交通費	300,000	248,286	51,714	監査の為の交通費、大会等事務局交通費、宿泊費
6) 交際費	5,000	0	5,000	
7) 委託費	324,000	379,800	▲ 55,800	会計事務所月25,000円＋税 31年4月-2年3月、メールアドレス運用代
8) 消耗品費	18,000	12,817	5,183	消耗品、10万円以下の備品
9) 事務用品費	5,000	0	5,000	事務用文具等
11) 支払手数料	50,000	3,480	46,520	銀行振込手数料、役員登記手数料
14) 事務局費	2,028,000	2,028,000	0	委託費：月194,000円×6 H31年4月～R1年9月 / 月144,000円×6 R1年10月～R2年3月
15) 租税公課	20,000	0	20,000	源泉所得税、利子税、登録免許税、収入印紙代等
16) 運営費	20,000	18,310	1,690	メダル作成費
17) 雑費等	0	0	0	
99) 予備費	76,000	76,000	0	法人税等
小 計	2,961,000	2,873,199	87,801	
2.広報				
7) 委託費	150,000	155,898	▲ 5,898	HP情報更新料・サーバ利用料
11) 支払手数料	1,000	648	352	銀行振込手数料
小 計	151,000	156,546	▲ 5,546	
3.総会・理事会				
1) 人件費				
ア アルバイト給料	0	0	0	
2) 通信費・広報費	80,000	110,934	▲ 30,934	総会の案内資料印刷・発送代
3) 印刷編集費	60,000	53,168	6,832	案内送付用封筒・ハガキ・案内資料印刷
4) 会議費	100,000	83,878	16,122	理事会 会場費
5) 旅費交通費	750,000	630,060	119,940	理事会 旅費交通費
11) 支払手数料	5,000	6,520	▲ 1,520	銀行振込手数料
小 計	995,000	884,560	110,440	
4.学術				
1) 人件費 (アルバイト給料)				
ア アルバイト給料	200,000	371,000	▲ 171,000	論文データ等アップデート作業代
2) 通信費・広報費	30,000	38,593	▲ 8,593	論文送送料
3) 印刷編集費	750,000	834,900	▲ 84,900	論文集No.34, 35 220部印刷料、コピー代
4) 会議費	100,000	49,500	50,500	学術委員会昼食代、飲食代
5) 旅費交通費	600,000	519,648	80,352	学術委員会参加交通費
7) 委託費	506,873	506,873	0	研究発表会論文オンライン査読システム委託費 年間利用料：506,873円
11) 支払手数料	10,000	9,784	216	銀行振込手数料
16) 運営費	50,000	0	50,000	査読者昼食代
17) 雑費等	0	0	0	
小 計	2,246,873	2,330,298	▲ 83,425	
5.国際交流				
11) 支払手数料	10,000	0	10,000	
13) 補助等	0	0	0	
16) 運営費	100,000	0	100,000	
小 計	110,000	0	110,000	

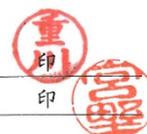
科目	①予算	②決算	比較①-②	備 考
6.春季研究発表会				
1) 人件費(アルバイト給料)				
アルバイト給料	0	0	0	
2) 通信費・広報費	5,000	4,500	500	
3) 印刷編集費	190,000	203,796	▲13,796	梗概集No.44CD付 100部 CD20部
5) 旅費交通費	400,000	357,478	42,522	現地見学会バス、授賞者旅費
6) 交際費	0	60,640	▲60,640	シンポジウムお礼、懇親会費
8) 消耗品費	3,000	3,617	▲617	賞状用紙他
11) 支払手数料	3,000	2,376	624	銀行振込手数料
12) 謝金	100,000	107,705	▲7,705	パネリスト、パフォーマー謝礼
16) 運営費	180,000	175,050	4,950	現地見学会費用(昼食代含む)
17) 雑費等	0		0	
小 計	881,000	915,162	▲34,162	
7.秋季研究発表会				
1) 人件費(アルバイト給料)				
アルバイト給料	40,000	46,725	▲6,725	
2) 通信費・広報費	5,000	3,949	1,051	梗概集送料、賞状送付料
3) 印刷編集費	240,000	207,130	32,870	梗概集No.45CD付 140部
5) 旅費交通費	5,000	8,000	▲3,000	アルバイト交通費
6) 交際費	380,000	257,743	122,257	懇親会会場代、料理代
8) 消耗品費	3,000	3,482	▲482	賞状、賞状用筒、備品
9) 事務用品費	0	0	0	
11) 支払手数料	1,000	880	120	
12) 謝金	30,000	0	30,000	パフォーマー謝金
16) 運営費	400,000	461,628	▲61,628	昼食、飲み物代、パネル設置代
17) 雑費等	0	0	0	
小 計	1,104,000	989,537	114,463	
8.東日本大震災連続ワークショップ				
2) 通信費・広報費	5,000	3,002	1,998	
3) 印刷編集費	120,000	153,468	▲33,468	特別論文集No.8(CD付) 80部
5) 旅費交通費	100,000	64,800	35,200	現地見学会等バス代
6) 交際費	75,000	133,300	▲58,300	懇親会
11) 支払手数料	1,000	872	128	銀行振込手数料
12) 謝金	30,000	0	30,000	講師謝礼
16) 運営費	10,000	45,000	▲35,000	見学会、昼食代等、パフォーマンス料
17) 雑費等	0	0	0	
小 計	341,000	400,442	▲59,442	
9.リスクコミュニケーション特別企画研究小委員会				
5) 旅費交通費	0	37,510	▲37,510	額が未確定であった分(事後評価面接参加)
11) 支払手数料	0	6,916	▲6,916	振込手数料
16) 運営費	0	364,393	▲364,393	補助金返金分(事業2018年度終了)
小 計	0	408,819	▲408,819	
10.その他事業				
5) 旅費交通費	200,000	202,640	▲2,640	研究小委員会61,120円 防災学術連携体99,720円 若手研究会 41,800円
8) 消耗品費	0	48,400	▲48,400	研究小委員会トナー代
11) 支払手数料	1,000	1,520	▲520	銀行振込手数料
13) 補助金	40,000	40,000	0	安全工学シンポジウム共催分担金、防災学術連携体会費
16) 運営費	100,000	47,931	52,069	安全・安心若手研究会の運営費:100,000円(旅費交通費は41,800円使用)
小 計	341,000	340,491	509	
支出合計	9,130,873	9,299,054	▲168,181	

収入-支出	-932,954
-------	----------

なお、科目間の流用を認めます。

2020年5月 日
上記の通り収支決算を報告いたします。

一般社団法人地域安全学会
監事 重川 希志依
監事 宮野 道雄



3) . 2020年度役員について

昨年度の臨時総会で承認いただいたように、理事、監事は2019～2020年度の2年の任期となるので、2019年度は役員改選を行わなかった。2020年度役員は以下の通りである。

1) 理事

生田 英輔	大阪市立大学大学院生活科学研究科
池田 浩敬	常葉大学大学院環境防災研究科
市古 太郎	首都大学東京大学院都市環境科学研究科
糸井川 栄一	筑波大学システム情報系
稲垣 景子	横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院
梅本 通孝	筑波大学システム情報系
大西 一嘉	神戸大学大学院工学研究科
大原 美保	土木研究所水災害・リスクマネジメント国際センター
加藤 孝明	東京大学生産技術研究所
柄谷 友香	名城大学都市情報学部
越村 俊一	東北大学災害科学国際研究所
越山 健治	関西大学社会安全学部
小山 真紀	岐阜大学流域圏科学研究センター
指田 朝久	東京海上日動リスクコンサルティング
庄司 学	筑波大学システム情報系
立木 茂雄	同志社大学社会学部
田中 聡	常葉大学大学院環境防災研究科
西川 智	名古屋大学減災連携研究センター
能島 暢呂	岐阜大学工学部
秦 康範	山梨大学工学部
藤本 一雄	千葉科学大学危機管理学部
牧 紀男	京都大学防災研究所
松岡 昌志	東京工業大学環境・社会理工学院
村尾 修	東北大学 災害科学国際研究所
目黒 公郎	東京大学 生産技術研究所
森 伸一郎	愛媛大学大学院理工学研究科
八木 宏晃	静岡県交通基盤部

2) 監事

重川 希志依	常葉大学大学院環境防災研究科
宮野 道雄	大阪市立大学大学運営本部

以上、理事27名、監事2名

2020年度地域安全学会委員会等の構成（案）

（◎委員長、○副委員長、___理事、理事は所属を省略）

【会長】

村尾修

【副会長】

田中聡：学術（研究・国際交流）担当

能島暢呂：総務（会員・広報）担当

【総会・春季研究発表会実行委員会】

◎梅本通孝、○市古太郎、越村俊一、小山真紀、小野祐輔（鳥取大学）、浅井秀子（鳥取大学）、中谷典正（セコム山陰）

【秋季研究発表会実行委員会】

◎池田浩敬、○八木宏晃

【学術委員会】

◎秦康範、○越山健治、糸井川栄一、稲垣景子、木村玲欧（兵庫県立大学）、越村俊一、小林秀行（明治大学）、佐伯琢磨（神戸学院大学）、佐藤翔輔（東北大学）、澤田雅浩（兵庫県立大学）、中林啓修（国士舘大学）、永松伸吾（関西大学）、丸山喜久（千葉大学）、三浦弘之（広島大学）、村上正浩（工学院大学）

【研究運営委員会】

◎大原美保、○梅本通孝

【広報委員会】

◎藤本一雄、○秦康範、庄司学、松岡昌志（HP担当）、能島暢呂、小山真紀

【表彰委員会】

◎池田浩敬、稲垣景子、柄谷友香

【選挙管理委員会】

◎指田朝久、○藤本一雄

【国際交流委員会】

◎西川智、森伸一郎、立木茂雄、牧紀男、稲垣景子、目黒公郎

【東日本大震災特別委員会】

◎村尾修、○生田英輔、稲垣景子、大西一嘉、佐藤翔輔（東北大学）、杉安和也（東北大学）、寅屋敷哲也（人と防災未来センター）、松川杏寧（人と防災未来センター）

【安全工学シンポジウム担当】

◎稲垣景子

【防災学協会連合組織担当】

◎田中聡、○西川智

4) . 2020年度事業計画

①理事会の開催

2020年度は理事会を下記のとおり開催する。

臨時理事会 2020年5月23日（土） オンライン

第1回 2020年6月20日（土） オンライン

第2回 2020年7月11日（土） オンライン

第3回 2020年8月29日（土） オンライン

第4回 2020年10月31日（土） 静岡（静岡県地震防災センター）

第5回 2021年1月9日（土） オンライン

第6回 2021年3月20日（土） オンライン

ただし、地域の感染レベルが下がった場合には、同志社大学東京オフィスまたは東工大キャンパスイノベーションセンターでの開催を検討する。

②総会の開催

総会を下記のとおり開催する。

日時：2020年6月20日（土）

場所：東京都千代田区六番町13-7 中島ビル2F（地域安全学会事務局）

③春季オンライン研究報告会の開催

春季オンライン研究報告会を下記のとおり開催する。

日時：2020年5月23日（土）

④東日本大震災オンライン研究報告会2020の開催

東日本大震災オンライン研究報告会を下記のとおり開催する。

日時：2020年7月3日（金）

⑤秋季研究発表会の開催

秋季研究発表会を下記のとおり開催する

日時：2020年10月31日（土）～11月1日（日）

場所：静岡地震防災センター

⑥地域安全学会論文集・梗概集の刊行

i. 春季研究発表会において「地域安全学会梗概集 No. 46」、秋季研究発表会において「地域安全学会梗概集 No. 47」を刊行し、優秀発表賞を選出する。

ii. 地域安全学会論文集の論文募集は年2回とし、今年度は地域安全学会論文集 No. 37、同 No. 38（電子ジャーナル論文）の論文を募集する。

iii. 秋季研究発表会において「地域安全学会論文集 No. 36、No. 37」を刊行し、地域安全学会論文奨励賞を選出する。

iv. 地域安全学会論文集 No. 38（電子ジャーナル論文）をホームページ上で公開する。

v. 地域安全学会論文集（No. 36、No. 37）を対象に地域安全学会論文賞および年間優秀論文賞を選出する。

⑦広報活動の強化と会員管理

サービスの向上を目指して、会員へのメールによる各種情報配信、ホームページによる情報提供、印刷物による情報発信について、各々の機能分化した情報提供を実施する。

⑧地域安全学会技術賞の選出

表彰委員会において第14回地域安全学会技術賞の選考を行う。

⑨企画研究小委員会活動

企画研究小委員会において以下の3テーマについて研究活動を実施する。

- ①社会に役立つ防災情報システム研究小委員会（主査：牧紀男（京都大学））
- ②復興国際比較研究小委員会（主査：大西一嘉（神戸大学工学研究科））
- ③地域防災促進のための ICT の活用に関する研究小委員会（主査：小山真紀（岐阜大学））

⑩国際学術交流

- ・2021年開催予定の第5回世界防災会議（ICUDR）について準備を進める。
- ・韓国災難情報学会と今後の連携について協議する。

⑪役員選挙

定款の規定に則り、2020年度に新役員選挙を実施する。

⑫東日本大震災に関する支援・研究活動の推進

東日本大震災特別委員会による被災地支援・研究活動の実施、東日本大震災学協会連絡協議会への参画を行う。

⑬防災学協会連合組織への参加

「防災学術連携体」が主催、連携するシンポジウム等に参加し報告を行う。

⑭地域安全学 夏の学校2020ー基礎から学ぶ防災・減災ーの実施

大学生・大学院生を主な対象として、セミナーを開催する。

日時：2020年8月5日（月）

場所：名古屋大学

5). 2020年度予算

2020年度地域安全学会予算

(2020年4月1日～2021年3月31日)

収入の部

(単位：円)

科 目	2020年予算	2019年決算	備 考
1.会費収入	4,165,000	4,027,000	正会員:7,000円×545名 学生会員:2,000円×75名 賛助会員100,000円×2社
2.寄付金収入	0	0	
3.受取助成金等	0	0	リスクコミュニケーション事業2018年度で終了
4.春季研究発表会			
1)事業収益			
ア 梗概集登載料	470,000	470,000	登載料(ページ数対応5,000円/2ページ)×47名
イ 梗概集販売料	10,000	134,234	CD-R:1,000円×10枚
2)雑収入			
ア 懇親会費	0	0	中止のため
イ 視察費	0	232,000	中止のため
ウ その他	0	5,000	
小 計	480,000	841,234	
5.秋季研究発表会			
1)事業収益			
ア 梗概集登載料	400,000	310,000	登載料(ページ数対応5,000円/2ページ)×40名
イ 梗概集販売料	180,000	189,428	1冊:4,000円×45部
2)雑収入			
ア 懇親会費	435,000	279,000	懇親会参加費:7,500円×50名、2,500円×24名
イ 視察費	0	0	
ウ その他	0	0	
小 計	1,015,000	778,428	
6.東日本大震災連続ワークショップ			
1)事業収益			
ア 梗概集登載料	200,000	230,000	登載料(ページ数対応5,000円/2ページ)×20名
イ 梗概集販売料	20,000	28,360	1冊:2,000円×10部
2)雑収入			
ア 懇親会費	0	132,000	中止のため
イ 視察費	0	76,000	中止のため
ウ その他	0	15,000	中止のため
小 計	220,000	481,360	
7.学術			
1)事業収益			
ウ 論文集登載料	1,250,000	1,260,000	登載料(2万円+5,000円/2ページ)×50名
エ 論文集査読料	700,000	630,000	査読料:1編10,000円×70名
オ 論文集販売料	200,000	223,045	1冊:4,000円×50部
カ DVD販売料	20,000	30,000	1枚:2万円(会員価格)×1枚
2)雑収入			
ア その他	125,000	95,000	オンライン投稿査読システム利用料 5,000円×25編 日本災害情報学会 日本災害復興学会より
小 計	2,295,000	2,238,045	
8.受取利息	50	33	
9.その他	0	0	
収入合計	8,175,050	8,366,100	

支出の部

(単位：円)

科目	①予算	②決算	備 考
1.事務局・総務			
2) 通信費・広報費	100,000	90,186	切手、送料、電話代等
3) 印刷編集費	15,000	16,320	コピー代、封筒印刷代
5) 旅費交通費	60,000	248,286	監査の為の交通費、大会等事務局交通費、宿泊費
6) 交際費	5,000	0	
7) 委託費	382,800	379,800	会計事務所月25,000円＋税 2年4月-3年3月、メールアドレス運用代
8) 消耗品費	18,000	12,817	消耗品、10万円以下の備品
9) 事務用品費	5,000	0	事務用文具等
11) 支払手数料	50,000	3,480	銀行振込手数料、役員登記手数料
12) 謝金	0	0	
14) 事務局費	1,728,000	2,028,000	委託費月144,000円×12 2年4月～2年3月
15) 租税公課	20,000	0	源泉所得税、利子税、登録免許税、収入印紙代等
16) 運営費	320,000	18,310	メダル作成費20個+氏名等刻印費
17) 雑費等	0	0	
99) 予備費	76,000	76,000	法人税等
小 計	2,779,800	2,873,199	
2.広報			
7) 委託費	30,000	155,898	サーバ利用料
11) 支払手数料	1,000	648	銀行振込手数料
小 計	31,000	156,546	
3.総会・理事会			
1) 人件費			
ア アルバイト給料	0	0	
2) 通信費・広報費	30,000	110,934	Dropbox利用料等
3) 印刷編集費	30,000	53,168	案内送付用封筒・ハガキ・案内資料印刷
4) 会議費	100,000	83,878	理事会 会場費
5) 旅費交通費	650,000	630,060	理事会 旅費交通費
11) 支払手数料	5,000	6,520	銀行振込手数料
12) 謝金	0	0	
小 計	815,000	884,560	
4.学術			
1) 人件費(アルバイト給料)			
ア アルバイト給料	200,000	371,000	論文データ等アップデート作業代
2) 通信費・広報費	30,000	38,593	論文発送料
3) 印刷編集費	750,000	834,900	論文集No.36,37 印刷料、コピー代
4) 会議費	50,000	49,500	学術委員会昼食代、飲食代
5) 旅費交通費	400,000	519,648	学術委員会参加交通費
7) 委託費	535,180	506,873	研究発表会論文オンライン査読システム委託費 年間利用料：535,180
11) 支払手数料	10,000	9,784	銀行振込手数料
16) 運営費	50,000	0	査読者昼食代
17) 雑費等		0	
小 計	2,025,180	2,330,298	
5.国際交流			
11) 支払手数料	10,000	0	
13) 補助等	0	0	
16) 運営費	100,000	0	
小 計	110,000	0	

科目	①予算	②決算	備 考
6.春季研究発表会			
1) 人件費(アルバイト給料)			
アルバイト給料	0	0	
2) 通信費・広報費	10,000	4,500	郵送料、Dropbox利用料等
3) 印刷編集費	85,000	203,796	梗概集No.46 PDF+CD20部
4) 会議費	0	0	
5) 旅費交通費	0	357,478	中止のため
6) 交際費	0	60,640	
8) 消耗品費	3,000	3,617	賞状用紙他
11) 支払手数料	3,000	2,376	銀行振込手数料
12) 謝金	0	107,705	中止のため
16) 運営費	33,000	175,050	ポスター・チラシデザイン代
17) 雑費等	0	0	
小 計	134,000	915,162	
7.秋季研究発表会			
1) 人件費(アルバイト給料)			
ア アルバイト給料	40,000	46,725	
2) 通信費・広報費	5,000	3,949	梗概集送料、賞状送付料
3) 印刷編集費	240,000	207,130	梗概集No.47
4) 会議費	0	0	
5) 旅費交通費	5,000	8,000	アルバイト交通費
6) 交際費	380,000	257,743	懇親会会場代、料理代
8) 消耗品費	3,000	3,482	賞状、賞状用筒、備品
9) 事務用品費	0	0	
11) 支払手数料	1,000	880	
12) 謝金	30,000	0	パフォーマー謝金
16) 運営費	230,000	461,628	昼食、飲み物代、パネル設置代
17) 雑費等	0	0	
小 計	934,000	989,537	
8.東日本大震災連続ワークショップ			
2) 通信費・広報費	5,000	3,002	
3) 印刷編集費	120,000	153,468	特別論文集No.9(CD付)
5) 旅費交通費	0	64,800	中止のため
6) 交際費	0	127,500	中止のため
11) 支払手数料	1,000	872	銀行振込手数料
12) 謝金	0	0	中止のため
16) 運営費	0	50,800	中止のため
17) 雑費等	0	0	
小 計	126,000	400,442	
9.リスクコミュニケーション特別企画研究小委員会			
16) 運営費	0	408,819	リスクコミュニケーション事業2018年度で終了
小 計	0	408,819	
10.その他事業			
5) 旅費交通費	200,000	160,840	研究小委員会(2つ)、防災学術連携体の旅費交通費
8) 消耗品費	100,000	48,400	研究小委員会(2つ)
11) 支払手数料	1,000	1,520	銀行振込手数料
13) 補助等	40,000	40,000	安全工学シンポジウム共催分担金、防災学術連携体会費
16) 運営費	100,000	89,731	安全・安心若手研究会の運営費：100,000円(交通費も含む)
17) 雑費等	0	0	
小 計	441,000	340,491	
支出合計	7,395,980	9,299,054	

収入-支出	779,070
-------	---------

なお、科目間の流用を認めます。

(2) 地域安全学会オンライン研究報告会における優秀発表賞について

地域安全学会 表彰委員会

地域安全学会では、春季・秋季研究発表会での一般論文の研究発表（口頭発表・ポスター発表）を対象として優秀発表賞を平成24年度に創設し、表彰を行っております。2020年5月23日に、新型コロナウイルス感染症拡大の状況を踏まえオンライン形式で実施された地域安全学会オンライン研究報告会におきましては、23編の口頭発表が行われました。そのうち事前に応募登録された方を選考対象とすることといたしました。

今回は10編の応募登録があり、下記の審査要領に従って採点を実施しました。採点終了後に優秀発表賞審査会を開催して厳正なる選考を行いました。審議の結果、以下の方を授賞対象者として選出いたしましたことをここに報告いたします。

・高橋幸宏氏（岐阜大学大学院工学研究科）

「非負値行列因子分解を用いた南海トラフ巨大地震の浸水深分布の空間分布特性の要因分析」

・中谷典正氏（セコム山陰株式会社）

「鳥取県内中小企業に対する11年間のBCP普及の取り組みと課題」

（並びは五十音順）

なお、この選考結果につきましては、研究発表会当日に行われた懇親会で発表しました。表彰式につきましては、11月の秋季大会懇親会で行う予定です。

今後の研究発表会におきましても、引き続き優秀発表賞の選考を行いますので、奮って投稿・発表していただきますようお願いいたします。

「地域安全学会優秀発表賞」審査要領(平成24年5月26日制定)(平成28年3月26日改定)(令和2年4月17日)

1. 授賞対象者

「地域安全学会優秀発表賞」の授賞対象者は、地域安全学会 研究発表会（春季・秋季）もしくはオンライン研究報告会での一般論文の研究発表（口頭発表・ポスター発表・オンライン口頭発表）の発表者であり、原則、研究実施または論文作成において指導を受ける立場にある40歳（当該年度4月1日時点）未満の者とする。ただし、実務者等は研究歴等を考慮し年齢規定を緩和することもある。再受賞は認めない。また、予定された発表者ではない代理発表者及び一般論文登録時に審査を希望しない旨登録した者は対象外とする。

2. 審査方法

1) 表彰委員会委員全員、学会長・副会長、学術委員会委員長・副委員長、学術委員会電子ジャーナル部会長・副部会長、春季研究発表会実行委員長、秋季研究発表会実行委員長、および別途指名される採点委員から構成される優秀発表賞審査会が審査を行う。

2) 採点委員は、研究発表（口頭発表，ポスター発表もしくはオンライン口頭発表）時に，評価シートを用いて各発表者の採点を行う。

3) 優秀発表賞審査会では，すべての採点委員により提出された評価シートに基づいて審議を行い，受賞者を決定する。

4) 審査の実施細目は別途定める。

3. 表彰

1) 賞は「地域安全学会優秀発表賞」と称する。

2) 「地域安全学優秀発表賞」の受賞者には，賞状を贈呈する。

3) 受賞者発表および表彰式については実施細目に定める。

以上

5. 東日本大震災連続ワークショップ2020 オンライン研究報告会 開催

報告

地域安全学会 東日本大震災特別研究委員会

村尾修，生田英輔，大西一嘉，稲垣景子，佐藤翔輔，杉安和也，松川杏寧，寅屋敷哲也

(文責：佐藤翔輔)

2020年7月3日(金)，地域安全学会「東日本大震災連続ワークショップ2020 オンライン研究報告会」を開催いたしました(主催：地域安全学会，共催：東北大学災害科学国際研究所)．東日本大震災連続ワークショップは，2011年3月11日に発生した東日本大震災の被災地を開催場所として，同震災を教訓とした今後の防災と復興について現場で議論を深めることを目的として実施されています．本ワークショップは，これまで2012年に福島県いわき市で第1回を開催されたのをはじめとし，2013年に岩手県大船渡市(第2回)，2014年に岩手県宮古市(第3回)，2015年に宮城県気仙沼市(第4回)，2016年に宮城県石巻市(第5回)，2017年に岩手県釜石市(第6回)，2018年に宮城県南三陸町(第7回)，2019年は福島県南相馬市(第8回)と震災の被災地をめぐるしてきました．第9回目となる今回は，宮城県名取市で開催する予定でしたが，コロナ禍の影響で論文投稿者のうち，希望者によるオンライン研究報告会として簡易なかたちで開催しました．

18編の論文投稿があり，うち9編の口頭発表がなされました．当日は，松川杏寧委員(防災科研)の司会のもと，田中聡副会長(常葉大)のあいさつにはじまり，生田英輔副委員長(大阪市立大)と稲垣景子委員(横浜国立大)が座長となり，午前・午後それぞれに研究発表と活発な質疑応答が行われました．クロージングとして，立木茂雄教授(同志社大)から全9編の発表に関する講評をいただき，村尾修会長兼委員長(東北大)より全9回の連続ワークショップのふりかえりや学会としての東日本大震災に関する今後の取り組み方針について挨拶がありました．寅屋敷哲也委員(人防)はオンライン環境の共同ホストを，佐藤翔輔委員(東北大)は閉会の進行役をつとめました．オンライン研究報告会には，のべ63名が参加し，これまでで最も多くの参加があった会となりました．本来の名取市開催としての連続ワークショップは，あくまで「延期」であり，コロナ禍事態の安定を待って開催したいと考えています．多くの皆様のご参加誠にありがとうございました．



発表の様子(黒い画面箇所は，ビデオ停止(カメラオフ)の参加者)

6. 寄稿

微動と温泉

山田 雅行(株式会社ニュージェック・微動の会幹事)

微動(常時微動)とは、常に動いている地面のわずかな揺れのことである。今も、私たちが生活している建物や地面などすべてが人に感じない程度の大きさで常に揺れている。海の波や風といった自然現象、工場の振動、列車、車の走行、人の歩行など人工的なものが、微動の振動源となっている。地震と違って震源を特定することはできないのが微動である。

この微動、常にどこでも揺れているので、高精度の地震計(微動計)を使えば、いつでも簡単に観測ができる。その上、微動の特性を調べると、卓越周波数やS波速度といった地盤の特性を知ることができるすぐれものである。

温泉は、昭和23年に制定された「温泉法」により、地中から湧出する温水、鉱水及び水蒸気その他のガスで、25°C以上の温度、硫黄や炭酸などの物質を一定量有するものと定義されている(環境省)。日本には、北は北海道から南は沖縄まで津々浦々、温泉がある。さすがに秘湯的な様相ではないが、沖縄にもちゃんと温泉はある。日本に住む人ならだれもが身も心も癒され、ほっこりとした体験があるのではないだろうか。

“微動と温泉”と聞くと、読者のみなさんは、「地盤の特性がわかる微動を使って温泉を見つける?」とか、「温泉地の地盤調査が微動を使ってできる?」などと想像される方がいるかもしれない。もともと水平多層近似が可能な平野部で、かつ、微動レベルの高い都市域において、絶大なコストパフォーマンスを示す地盤探査ツールとして、微動は利用、開発されてきた。したがって、温泉地すなわち3次元不均質が強い山間部の微動レベルが低い地域に対して、微動の適用は困難といえる。本稿も、このような温泉地に対する微動探査の適否や適用事例について述べるものではないことを明記しておく。

さて、「微動の会」という集まりをご存じであろうか。

微動に興味を持つ研究者、学生、実務者などが、年1回、20~40人くらい集まって、二泊三日で酒を酌み交わす。いや、もとい。年1回、20~40人くらい集まって、二泊三日で“微動”に関する議論を交わす集まりである。たいてい金曜日の午後に集まって、土曜日の夜まで議論を交わす。日曜日は観測会と称して近隣の町の微動を測りたおす。

微動の会の入会資格は“微動に興味があること”。微動に関する研究、業務に携わっているかどうかは関係なく、唯一“微動に興味があること”である。会員はメーリングリストに登録される。それだけである。したがって、入会に際して入会金や会費の類は一切なく、二泊三日の会への参加のための実費のみである。現在、そのメーリングリストには、100名前後の方々に名を連ねていただいている。所属も、大学等教育機関、公共の機関、ライフライン関係、コンサルタント・システムエンジニア等民間企業など、さまざまである。

微動の会は約10年前の2008年に始まった。

そのころ多くの研究者、実務者たちが微動観測を始めつつあった。しかし、同じ場所で、異なる人が観測するなど、必ずしもデータの効率的な利活用がなされておらず、機器、観測方法、観測データ等に関する共通認識も少なかった。微動観測結果を効率的に利用することに資するために、微動を観測・利用する方々の意見交換の場を持つという主旨のもと微動の会は始まった。2008年はその準備会であった。

この準備会は、参加者6名、5月末に1泊2日、上諏訪温泉で開催した。当時、K-NET 諏訪における微動観測結果、微動データの共有の可否や諏訪の地盤構造について議論を行っている。上諏訪温泉は単純温泉、かけ流しであった。

表1 これまでの微動の会

西暦	和暦	回	開催都市	会場	観測	見学	幹事長	備考	
2008	H20	0	諏訪 長野県	KKR諏訪	諏訪市内 (雨天のため中止)	中央構造線 ミュージアム		準備会 参加6名	
2009	H21	1	松江 島根県	島根大学汽水域センター 中海分室	大根島	—	鳥取大 香川先生・ 野口先生		
2010	H22	2	松山 愛媛県	愛媛大・ホテル泰平	松山市内	—	愛媛大 森先生		
2011	H23	3	福井 福井県	福井大・日之出旅館	福井市内	—	福井工大 安井先生・ 福井大 小嶋先生		
2012	H24	4	つくば 茨城県	産総研	つくば市内	—	産総研 長さん		
2013	H25	5	伊豆 静岡県	南山荘	沼津市	沼津港水門・ 避難タワー	東京理科大 栗田先生	地震学会 発表	
2014	H26	6	花巻 岩手県	藤三旅館	花巻市	三陸沿岸	岩手大 山本先生		
2015	H27	7	箱根 神奈川県	神奈川大学保養所	箱根周辺	箱根山周辺	神奈川大 荏本先生		
2016	H28	8	大野 福井県	扇屋旅館	勝山市内	もんじゅ・敦賀 発電所	福井大 大堀先生	地震工学 論文集	
2017	H29	9	平川 青森県	南田温泉ホテルアッ ブルランド	平川市街地、断層 周辺	弘前城	弘前大 片岡先生		
2018	H30	10	秋田県	温泉旅館 ゆもと	大潟村	秋田国家石油 備蓄基地	地震予知総合研究振 興会 大保さん		
2019	H31	11	石川県	いこいの里 能登半 島	輪島市門前町	志賀原子力発 電所	金沢大 村田先生		
2020	R2	—	新型コロナウイルスのため延期						
2021	R3	12	愛媛県	未定	未定	未定	愛媛大 森先生	予定	

準備会を経て、鳥取大 香川先生(初代会長)のもと栄えある第1回の開催は2009年8月であった。島根大学汽水域センター中海分室に全国から19名の参加者が集まった。大学の施設だけに温泉は備わってなかったが、夕食を兼ねて、近くの温泉施設をちゃんと訪れた。大学の施設だけに合宿の色が濃く、こじんまりした講義室で夜中まで活発な議論が続いたことが印象に残っている。また、観測を行った大根島は、厚い堆積層の上に火山が噴火してできたキノコのような島であったことを覚えている。

2010年には愛媛県松山市で開催された。言わずと知れた道後温泉である。昼間の議論は愛媛大学で行ったが、大学に隣接する宿には温泉があった。施設のホームページには、源泉かけ流しではないものの、奥道後温泉からの引き湯と書かれている。



写真1 南山荘(当時)の様子

2013年には伊豆長岡を訪れた。南山荘(休館中)、源氏山南斜面に八千坪の敷地を有する、なんとも由緒正しき旅館である。宿の由緒書きには、なんでも昭和30年に自由党と日本民主党が合併の折に自由民主党と名づけた場所であると書いてある。とはいえ、だだっ広い部屋を5人で素泊まり1万円(2,000円/人)であった。破格である。この年から議論の場と泊まる場所が一緒になった。昼ごはんのあとに温泉、誰かの講演中に温泉なんてことも許された。泥酔して、温泉に入ると危ないので、この方がよい。そういえば、酔っぱらって廊下で寝てしまう輩もいた(筆者である)。まったく節度のある大人の会?なのである。

この年、微動の会の開催は10/4(金)~10/6(日)であった。翌10/7(月)~9(水)に横浜で開催された日本地震学会2013年度秋季大会(発表は10/8であった)において、10/6に沼津市内行った微動観測結果を速報した(図1、図2)。あれっ。いずれにせよ、微動の会としての初めての対外発表であった。当初、著者「微動の会」で投稿したが、残念ながらそれは認められなかった。

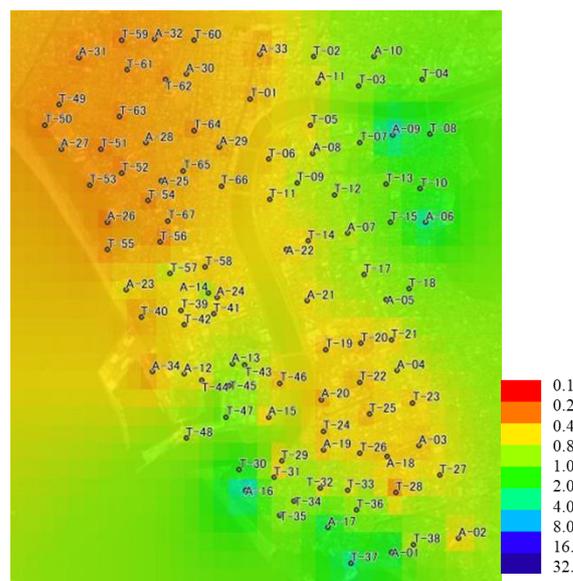


図1 沼津市における卓越周波数コンター(Hz)

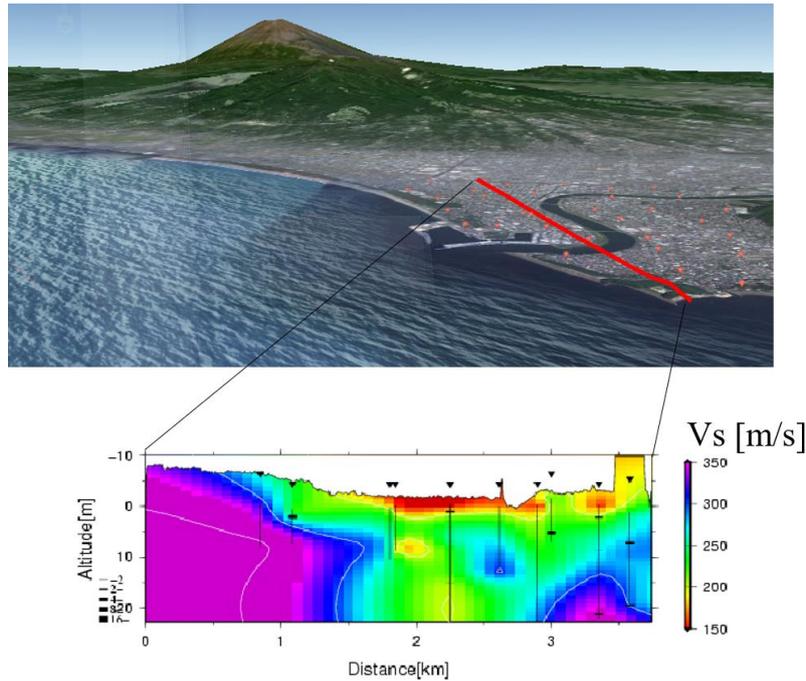


図2 Simple Profiling と H/V 深度変換による断面図

翌年は、東日本大震災から3年を経て、復旧・復興の明かりが見えるようになってきたこともあり、岩手花巻・鉛温泉での開催となった。秘湯の高級旅館にリーズナブルな条件で泊めていただけだ。微動の会で唯一の混浴宿である。

木造の本館は3階建てで、講演会を途中で抜け出し、3Fと1F(玄関先)で微動観測を行った。その水平動同士の比をとると、梁間方向は2.4Hz、約300倍、桁行方向は3.0Hz、約100倍となった(図3)。増幅率が大きくて驚いた。一方、1F(玄関先)での微動観測記録の水平動/上下動の比(H/V)は、平坦な形状となり、木造建屋の基礎が硬い岩盤であることを示した(図4)。ここまで平坦なH/Vはなかなかお目にかかれない。

この施設、東北地方太平洋沖地震では深刻な被害は受けなかったようだ。震源域からいくぶん離れていることもあるが、基礎が硬い岩盤であったことも大きな要因のひとつであろう。

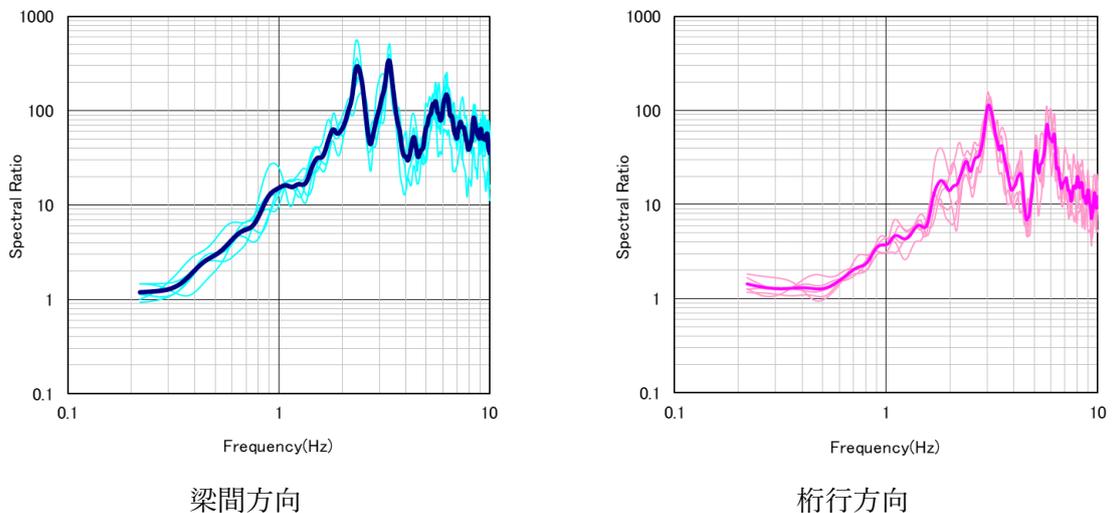


図3 水平動の比(3F/1F)

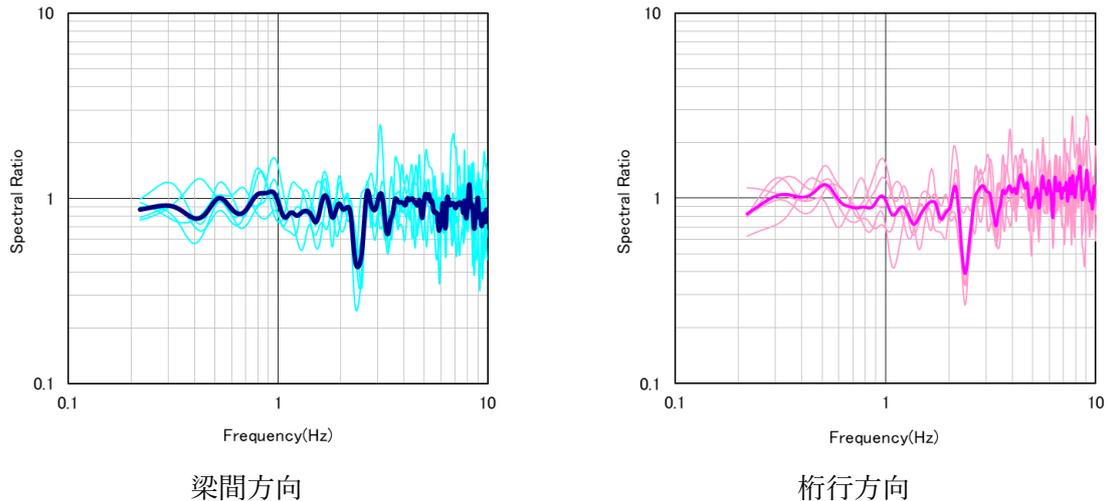


図4 水平動／上下動(1F)

2015年は箱根である。箱根は幹事長自らの大学の保養所を予約してくださった。微動の会始まって以来の貸し切りである。もちろん箱根の温泉付きである。

2015年5月に箱根火山の活動が活発化したため、開催自体が心配された。幹事団が乗り込んだ前日の大雨の影響か、箱根登山鉄道が運休になり、参加者の会場入りに支障が出た。困難に見舞われたものの無事開催でき、箱根火山に関する特別講演、箱根火山周辺の巡見、微動アレイおよび長時間微動観測など、充実した微動の会であった。もちろん素晴らしい温泉であった。

2016年は越前大野での開催となった。残念ながら、温泉ではなかったが、名酒が手に入った。宿の裏手のたまたま入った酒屋さんで見つけたお酒。熟成されたお酒がブレンドされ無濾過のため淡い黄金色である。1晩目に一升瓶1本、2晩目に一升瓶2本、3日目には参加者の多くがお土産に。結局、酒屋さんにあった在庫は売り切れてしまった。

この年だけ、微動観測を初日に行った。2泊3日のうちに論文を書こうといった主旨であった。会の中に書き上げることはできなかったが、この時の幹事長のご尽力もあり、大野市のとなりの勝山における微動観測結果をとりまとめた「福井県勝山盆地における微動観測」を地震工学会論文集に掲載することができた(https://www.jstage.jst.go.jp/article/jaee/17/4/17_4_170/_article/-char/ja/、図5)。この論文(報告)、著者の所属にご注目いただきたい。また、この投稿に際して、微動の会の英文呼称が Microtremor Research Camp (MRC)に決まった。

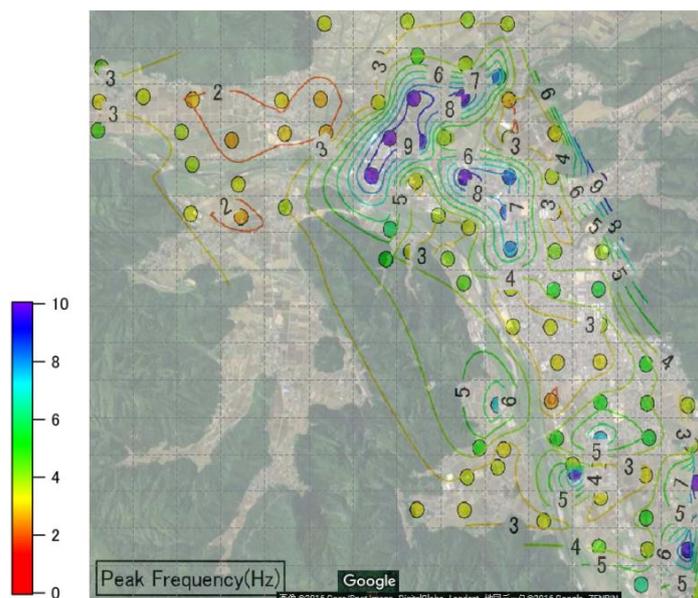


図5 勝山盆地におけるピーク周波数分布

2017年、青森での開催となった。当初、温湯温泉の大正ロマン漂う老舗旅館での開催を検討したが、“30人の対応はできない”とけんもほろろに断られた。幹事長にご紹介いただいた宿兼会場は、りんご風呂。りんご大観音像様にも参拝させていただいた。近隣の田んぼアートも見学し、出来栄への精密さに驚かされた。微動の会開催に際して、宿のある平川市より補助金をいただいた。ありがたいことである。2018年は秋田、男鹿温泉。ここの温泉は好みである。600年以上前から宿のあたりに湧いていたという記録があるらしい。しかし、大型台風に見舞われ、大潟村で予定していた微動観測会を断念することとなった。2019年は石川県、志賀町。志賀の郷温泉は、湯冷めしにくい塩化物泉と肌をなめらかにする炭酸水素塩泉の混合泉だそうだ。2007年の能登半島地震で被災した旧門前町において観測会を行った。2020年は愛媛での2回目の開催が決まっていたが、残念ながら新型コロナウイルス感染症の蔓延のために1年間の延期を余儀なくされた。

微動の会では年1回の集まりに加えて、Facebookによる情報発信も行っている。「微動の会」で検索するとまっさきにヒットする。ご興味のある方は、こちらを是非ご参照いただきたい。

関西電力(株)の発電所がある福井県を関西に含めると、微動の会はこれまで東北、関東、中部、北陸、関西、中国、四国地方において開催してきた。いまだ北海道、九州・沖縄地方では開催できていない。微動に興味をお持ちで、ホストとなってくださる方がおられれば、ぜひご一報いただきたい。

本会において観測したデータは、会員において共有されており、自由に使用できる。また、会員の同意が前提だが、外部への提供も可能であることを書き添えておく。

最後になりますが、本稿を執筆する機会を与えてくださった地域安全学会広報委員会に御礼申し上げます。微動の会の経緯やエピソードを本寄稿として執筆することをお許しいただいた、微動の会の藤原会長(防災科学技術研究所)、常任幹事の皆さんに謝意を表します。会長をはじめ、歴代の幹事長、ご参加いただいたすべての会員のみなさま、迎えていただいた施設のみなさま、観測させていただいた街のみなさまのおかげで、微動の会は十数年継続して開催することができました。ここに改めて、心より感謝申し上げます。

また、新型コロナウイルスにより罹患されたみなさま、何らかの影響を受けられたみなさまに心よりお見舞い申し上げます。そして、一日も早い終息を祈念するばかりです。



田んぼアート



りんご大観音像様

写真2 第9回微動の会



講演会風景



石油備蓄資料館

写真3 第10回微動の会



参加者の集合写真



微動計の集合写真

写真4 第11回微動の会

参考文献

地震調査研究推進本部：常時微動、https://www.jishin.go.jp/resource/terms/tm_microtremor/.

環境省：温泉の定義、<https://www.env.go.jp/nature/onsen/point/>.

山田・微動の会有志：微動観測に関する知見・データの共有化～微動観測による沼津市街地における揺れ易さ分布の推定～、日本地震学会 2013 年度秋季大会、B22-08、2013.

大堀ほか：福井県勝山盆地における微動観測、日本地震工学会論文集、第 17 巻、第 4 号、2017.

Ohori et.al. : OBSERVATION OF MICROTREMOR IN KATSUYAMA BASIN, FUKUI PREFECTURE CARRIED OUT THROUGH THE MICROTREMOR RESEARCH CAMP, Journal of Japan Association for Earthquake Engineering, Vol.18, No.3, 2018.

微動の会 Facebook :

<https://www.facebook.com/%E5%BE%AE%E5%8B%95%E3%81%AE%E4%BC%9AMicrotremor-Research-Camp-120271661980204/>



地域安全学会ニューズレター
第 112 号 2020 年 8 月

地 域 安 全 学 会 事 務 局
〒102-0085 東京都千代田区六番町 13-7
中島ビル 2 階
株式会社サイエンスクラフト内
電話・FAX : 03-3261-6199
e-mail : iss2008@iss.info

次のニューズレター発行までの最新情報は、学会ホームページ (<http://iss.jp.net/>) をご覧ください。